

ニュージーランド中銀は、政策金利の方向性を下方修正

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置き。金利据え置きは16会合連続。
- 世界経済見通し悪化と、国内消費の減速を背景に、政策金利の変更の方向性を、中立から引き下げ方向に修正。
- GDP統計は景気の底堅さを示す。労働集約型サービス業が堅調さを維持し、雇用情勢の安定が期待される。
- 目標水準を下回るインフレの回復状況や、良好な雇用情勢の継続が、RBNZの金融政策を占う上での注目点に。

政策金利の方向性を、引き下げ方向に修正

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は3月27日、大方の市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置き決定を下しました。金利据え置きは16会合連続となりました。

前回2月の金融政策会合では、RBNZは政策金利の変更の方向性について中立的な立場でした。しかし、今回の声明文では、世界経済見通しの悪化と、国内消費の減速を背景に、次の金利変更は引き下げの可能性の方が高いと述べ、政策金利の方向性を下方修正しました。

この内容を受けて、ニュージーランド・ドルは下落しました。

GDP統計は景気の底堅さを示唆

3月21日に公表された2018年10-12月期のGDP成長率は、前期比+0.6%(前年比+2.3%)と景気の底堅さを示す内容となりました。産業別では小売・宿泊業(前期比+2.5%)、輸送・郵便・倉庫業(前期比+3.2%)等を中心にサービス業が成長を牽引する形となりました。

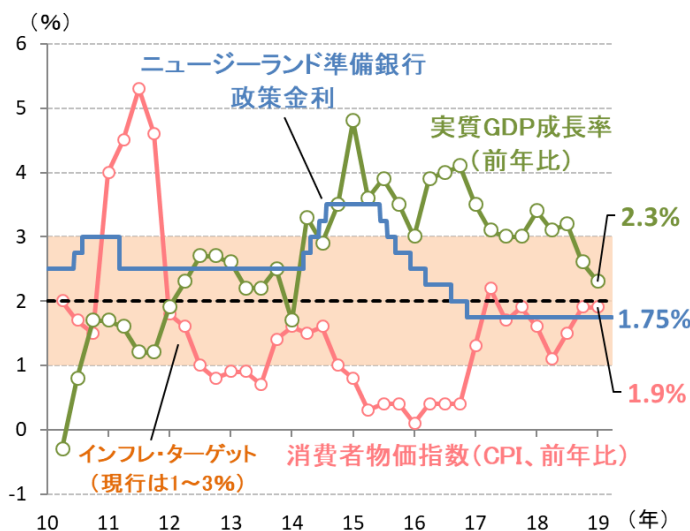
労働集約型サービス産業が経済成長のエンジンとなっていることから、ニュージーランドの雇用は引き続き堅調さを維持するものと予想されます。RBNZも声明文の中で「雇用は持続可能な最大限の水準にある」と述べ、雇用環境の安定への自信を示しています。

物価の動向や、雇用情勢の安定が今後の焦点に

RBNZは、コア・インフレ率が2%の物価目標中心値を下回っていることを緩和的な金融政策を継続する理由として挙げていますが、今後、インフレ率は物価目標中心値の2%へ上昇すると予想しています。企業がコスト上昇を販売価格に転嫁し始めれば、物価上昇圧力は一段と増す可能性があるとも指摘しています。

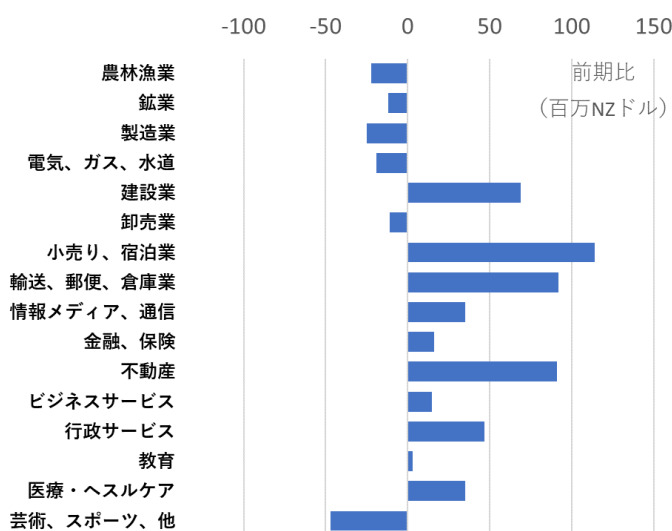
今後のRBNZの金融政策の方向性を左右する、インフレの回復状況や、雇用情勢の動向に市場の注目が集まりそうです。

図1:ニュージーランドの政策金利、インフレ率、GDP



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)、ニュージーランド統計局
 (期間)政策金利:2010年1月5日~2019年3月27日
 CPI・GDP:2010年1-3月期~2018年10-12月期

図2:GDP前期比(2018年10-12月期)



(出所)ニュージーランド統計局

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。